

甲状腺外科草子 1

永遠なるヒポクラテス

杉野 圭三



(様々なヒポクラテスの肖像)

医学を志すもので「ヒポクラテスの誓い」を知らぬものはいません。しかし、ヒポクラテスの実像はきわめて曖昧なものです。エーゲ海のコス(Cos)島に BC450-460 年ごろに生まれ、祖父と孫 2 人も同じ名前であり、混同されている可能性も否定できません。父からコス派の医術を学び、ギリシア、エジプトなどを巡歴し、ラリッサにおいて 90 歳 (一説には 109 歳??) で逝去したとされます。プラトンやソクラテスと同年代を生き、有名なヒポクラテス全集は後年 (BC3 世紀ごろ) アレキサンドリアの学者達によって編集されたとされています。

ヒポクラテス全集を手に入れることは困難ですが、岩波文庫の「古い医術について」なら読むことができます。自然治癒力の重視、栄養、医療環境の重視などが述べられていますが正直なところ、最初の数ページで睡魔に襲われそうになり、最後まで読み通すのは覚悟が必要です。

ヒポクラテスの教えの中で最も重要なことは、『何よりもまず、害をなさないこと、益を与えよ、さもなければ無害であれ』(Primum non nocere : First, do no harm, Above all, do no harm) という言葉です。

メスを持つ外科医が最初に教わる最も重要な規範です。甲状腺良性腫瘍や微小癌手術の手術適応を判断するときに、常にこの言葉を思い出します。

その他にも多数の有名な格言を残しています。『生命は短く、術は永遠である。正しき機会は刻々に移り、試には惑い多く、判断は難しい』。(VITA BREVIS ARS LONGA)、ヒポクラテス全集、第 8 編、箴言 (しんげん)。Ars, Art を芸術と訳している書籍もありますが、ヒポクラテスの業績を考慮すれば術 (医術) と訳すべきでしょう。

中でも、私が最も好きな言葉は『すべての手術において腕を磨き、両手を同時に動かせるように一左右の手を同じように動かせるように一練習すること。目標とするのは有能、洗練、速度、無痛、正確、そして機敏である』

当科の手術予定表ファイルの表紙には、この言葉を飾って常日頃の目標としています。

参考文献：

小川鼎三、医学の歴史 (中公新書)

ヒポクラテス、古い医術について (岩波文庫)

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2021 年 10 月 5 日